

# ティーチング・ポートフォリオ

内海崎貴子

(記入日：2019年 9月 19日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

教職論（小）（1年次前期教職必修2単位）、教職論（中・高）（1年次前期教職必修2単位）、教育実習演習（事前・事後指導）（3～4年次教職必修1単位）、教育原理（1年次後期教職必修2単位）、道德教育の指導法（中・高）（3～4年次教職必修2単位）、生徒指導（中・高）（3～4年次教職必修2単位）、教職実践演習（4年次後期教職必修2単位）、女性学（共通教育選択必修科目2単位）、女性学(1)（共通教育選択科目2単位）、女性学(2)（共通教育選択科目2単位）、道德教育の理論と方法（大学院後期選択科目2単位）、道德教育実践演習（大学院前期選択科目2単位）

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- ・ 教育に関わる基礎的・基本的知識、および教員として必要な技能の習得
- ・ ジェンダー・女性学の視点から、日常生活における様々な問題を発見し、それを解決しようとする態度や方略を身につけ、自身のライフサイクルを考えられるようにすること

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

- ・ インターネットを活用した情報収集の時間を設定し、グループの共同作業により課題解決を図る（生徒指導）
- ・ 参加体験型授業の実施（教職論）
- ・ ワークシートを用いた学習内容の整理及び検証をグループにより実施（教育原理）
- ・ 模擬授業実施および「授業参観記録」を用いた討論設定（道德教育の指導法）
- ・ 学校訪問等フィールドワークの設定（教職実践演習）
- ・ ICTの活用、グループワーク、ワークショップ、ナプキン製作と吸収力の実験の実施（女性学、女性学(1)(2)）
- ・ 小学校道德科授業への参観と授業研究指導（道德教育実践演習）

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ① 生徒指導では、学生全員が PC を用いたプレゼンテーションを実施できた。
- ② 教職論、教育原理では、各回のワークシートをファイリングすることにより、学習内容の確認と省察が可能となった。
- ③ 道德教育の指導法では、模擬授業実施後の討論を活用し、自身の学習指導案を再構築できた学生は3分の2にとどまったことから、課題が残った。
- ④ 教職実践演習、道德教育実践演習では、学校現場でのフィールドワークにより、学生の理解が深まったことを確認できた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

ほぼすべての科目において、的確かつ安全に ICT を活用できるよう指導する。また、事前・事後の学習課題を設定するとともに、オフィスアワーを利用して、学生への個別指導を行う。特に、教職論、教育原理では、教科書使用を促し、反転学習の機会を増やしたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ① リアクション・ペーパー（非公開）
- ② 学習指導案（非公開）
- ③ プレゼンテーション用資料（非公開）
- ④ 教科書 内海崎貴子編著『教職のための教育原理 第2版』八千代出版、2017年
- ⑤ 教科書 内海崎貴子編著『教職のための道德教育』八千代出版、2017年
- ⑥ 教科書 山崎準二・矢野博之編著『新・教職概論 改訂版』学文社、2020年2月刊行予定

## ティーチング・ポートフォリオ

小山 久美子

(記入日：2019年 9月 20日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<2018年度担当科目>言語学入門(1)(2) (1~2年 前期・後期 選択必修科目 各2単位)、言語コミュニケーション特講Ⅳ (3~4年 前期 選択必修科目 2単位)、言語学演習(3) (2年 後期 選択必修科目 2単位)、英文法Ⅱ (2年 通年 選択必修科目 2単位)、英語科教育法Ⅰ・Ⅱ (2年 前期・後期 教職科必修目 各2単位)、外国語活動の指導法 (2~4年 前期 選択必修科目 2単位)、他。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が英語の構造を理解し、言語学全般についての基礎的知識、さらに専門的な意味論・語用論の知識を習得し、自分で見つけたテーマを探求し論文を書くようにするためである。また、中学校、高等学校、小学校で英語を指導できる知識と指導技術を身につけさせるためである。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「言語学入門(1)(2)」では、パワーポイント資料 (エビデンス 1) を配付し、学生に授業を聞きながら空所補充をさせるとともに、視覚資料 (DVD) や地図等の補助資料を用いて説明を補い、学生の理解を助けるようにした。また、毎時間、授業の最後に記述式のチェックシート (リアクション・ペーパー) (エビデンス 2) を配布し記述させ、授業内容の理解度をこちらが確認し、コメントを付して次の授業時に返却している。理解不足の多かった箇所は返却後に解説している。「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」でも、授業内で穴埋め式のシート (エビデンス 3) を配布、学生に記述させ、授業内容の理解度をチェックさせ、理解不足の箇所を確認させた。また、ポートフォリオ (エビデンス 4) を使用し、省察を行わせ、教職に対する理解と自覚をもたせ、指導技術を習得する励みになるようにした。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

前期の「言語学入門(1)」では、学生は各時間の内容を大体理解していたが、

誤解や理解不足の部分もあったため、次の授業で補足することがあった。後期の「言語学入門(2)」では、理解度が上がった（エビデンス 5, 6）。「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」では、授業時のチェックシートによって自信のない箇所の確認をさせ、ポートフォリオを用いて省察させることで、学生が自分の短所を確認でき、改善の努力を行うと同時に、長所も認識でき、教職への自信と技術の習得への熱意をもつことができた（エビデンス 4）。しかし、履修者数によって、模擬授業の1人あたりの持ち時間が少なくなり、各種学校の1時間の授業を各自が行うことが難しいので、その工夫をしていく必要がある。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

「言語学入門(1)(2)」は専門科目の概論で、広範囲に渡る知識を教授しなければならないので、学生にとって難しい分野や関心のない分野もあり、専門用語を用いることも多い。専門用語や難解な分野の説明は、理解し易いようにさらに丁寧に行う必要があると考える。教職科目も同様に丁寧な説明をしていき、学生が指導技術を習得し、教職への理解と自覚を持ち続けられるようにポートフォリオとリアクション・ペーパーの活用をしていく。また、模擬授業の担当時間確保のための工夫を行う努力をする。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. パワーポイント資料（非公開）
2. チェックシート（記述式リアクション・ペーパー）（非公開）
3. チェックシート（穴埋め式）（非公開）
4. 「言語教師のポートフォリオ-英語教職課程編-」JACET 教育問題研究会編.  
（学生本人のものは非公開）
5. 2018 年前期授業評価アンケート（非公開）
6. 2018 年後期授業評価アンケート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

(記入日：2019年 9月22日)

児童教育学科 田中 聡

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

教育行財政 (2 - 4年後期選択必修科目2単位)、教職専門演習 (3) (3 - 4年後期選択必修科目2単位)、教育実習演習 (事前・事後指導) (3 - 4年通年選択必修科目1単位)、算数 (1 - 4年通年選択必修科目4単位)、基礎ゼミナール (1年前期必修2単位)、教職教養演習 (4) (4年前期選択必修科目2単位)、算数科教育法 (2 - 4年後期選択必修科目2単位)、生活の数学(1)(2)(1 - 4年前期、後期選択必修科目、各2単位)、教職インターンシップ (事前・事後指導) (3 - 4年通年選択必修科目4単位)、

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

自ら課題に向き合い、他者と協働しながら主体的に解決策に取り組むことにより、感謝の心と奉仕の精神を育み、自立した人材を育成する。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

算数や算数科教育法、教育行財政においては、事前学習の課題を明確にし、各自で取り組んだ結果について小グループで共有し、その中で出された新たな課題に向き合いながら、板書計画や指導案等を成果物として積み上げてきた。

演習科目についても課題を明確にし、それについて各自が取り組んできたことをもとに授業内で振り返りながら「できた」という実感が伴うように他者と学び合う場を設定した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

振り返りシートの内容や授業評価等では、学生が、「わかった」「できた」という実感をもって取り組んでいることが把握できた。また、授業内で明確にしてきた教師のスキルを理解し、それを学生が意識していくことで授業中の態度が意欲的になってきた。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

卒業後教師になるという目標がはっきりしている学生以外でも、人としてどう課題に取り組むべきかを考えられるように、それぞれの「学び」の目標をさらに明確にし、取り組むべき学習課題の設定を高くしていきたい。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

① 振り返りシート、板書計画、指導案、レポート等

② 「彼方」(校長通信・指導室長だより)、テキスト (シラバス記載)

(記入日：2019年9月23日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

学部

介護等体験（2年通年選択必修科目1単位）

教育インターンシップ（2年通年選択必修科目2単位）

特別支援教育実践演習（3・4年後期選択必修科目 2単位）

特別支援教育基礎（前期 選択必修科目、2単位）

生徒・進路指導論（2～4年後期 2単位）

特別活動の理論と方法（前期・後期 教職科目 各2単位）

進路指導（前期・後期 教職科目 各2単位）

大学院

特別支援教育の理論と方法（講義 2 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

特別支援教育実践法（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

特別支援教育実践演習Ⅰ（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

特別支援教育実践演習Ⅱ（演習 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

学校経営特論（講義 半期 1・2 選択必修科目 2 単位）

※ 本年度 担当している大学院は開講していない

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標

学生が教職の現場に立った際、指導上、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して共感的な支援ができるように、指導の基本的な姿勢と基礎的な知識を身につけさせることである。また、そうした児童生徒への支援方法を自ら工夫し、他の職員と協働して支援体制を構築することができるようにすることである。

また、理論を理解するために実際の教育現場に学生自身が足を運び、主体的に現場での経験を重ね、その経験を大学で他の学生と共有した上で、講義で理論として整理し、習得することができるように授業を進めることである。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が大学で学修する理論や方法を自分のものとして定着させるために、教育現場での体験・経験と大学での講義の往還教育を大切にしている。

また、介護等体験（事前・事後指導）では社会福祉施設の施設長や特別支援学校校長による事前指導を行う。授業では先輩達の体験記などを資料として実際の体験に基づく注意点や介護のポイントを指導し、具体的な授業を心がけている。また、施設での介護等体験が終了した者から施設での様子や成果を発表している。また事後指導はそれら経験をレポートにまとめさせることで経験の定着を図っている。

教育インターンシップでは我孫子市教育委員会指導主事（1回）や、現職校長による講演（3回）、近隣小学校の見学（2校）、東京都小学校、1日学校体験（1回）、川村小学校見学（平常授業1回、学校行事1回）等の現場での経験を重ね、レポート作成を通じて各自の学校での体験を具体的なイメージとして持った上で授業での理論を学修することに重点を置いている。また、年間を通じた校外でのボランティア活動（小学校での学習支援活動、公民館での学習支援）を必修として、関心を持った現場で主体的な体験活動を通して、教育現場での経験を重ね、そこでの問題点を授業で具体的に指導している。

特別支援教育論（基礎）では特にインクルーシブ教育システムの構築に向けての基礎的な知識を学ぶために、小学校における具体的な支援を想定して国立特別支援教育総合研究所のインクルーシブ教育システム構築支援データベースを実際に使用しながら、具体的な支援方法についての理解を進めている。また、具体的な支援の例では、これまでの教育現場での実例を示しながら解説することで、より理解しやすいように心がけている。また、途中では教材としてDVDの視聴を行い、障害の特徴や指導について具体的なイメージが持ちやすいように工夫している。

特別活動の理論と方法では、グループ学習での作業を取り入れ、仲間と協議を重ねながら授業構想を検討し、修正していく課程を経験し、さらに互いの発表を見ることで、斬新な発想を指導案に生かす課程を学習している。

進路指導では進路指導をキャリア教育ととらえて、キャリア発達理論を学びながら、実際に自分自身のキャリアについての検査を行い、自らのアキャリアについて考察を加えることを大切にしている。

すべての授業において毎回、授業のプリントを作成し、内容を具体的に示しながら授業を行っている。主体的に学習を進める機会を多くするために、課題に対してグループでの討議や発表を複数回行っている。課題への取り組みでは自が考える時間に加えて、学生研究室などを利用して、授業時間以外にも学生相互が協力・相談し最終的に課題を完成するように指導をした。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

介護等体験・教育インターンシップでは介護等体験・教育ボランティアを経験した学生がその都度体験レポートをまとめ、発表を行うことで自らの体験を振り返ることを繰り返し、回を重ねるごとに、児童生徒の前での対応が向上し、教師としての自覚を高めることができた。（エビデンス1）。

進路指導・特別活動の理論と方法においては授業構想案・指導案の作成や、発表用のパワーポイントづくり（エビデンス2）を通じて発表の質を高めることができた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

教育インターンシップでは昨年より地域の公民館と共催で学習支援を行っているが、公民館との連携が深まり、公民館長（元小学校校長）からの指導も積極的に取り入れ、効果を上げているので、これからも、内容の充実を進めていきたい。また、今年度からは東京都の小学校での体験・校長からの講演を組み込んでいる、今後はこうした内容の充実をはかり、現場体験と講義との往還教育を深め、より実践的・経験的な授業を行っていきたい。

特別活動の理論と方法・進路指導では時々、映像資料に加えて、具体的な内容についてのパワーポイント資料を作り、視覚的な教材を多く用意するようにしている。また、授業中にスマホ等でネットを検索し、画像を見せるなどして、具体的なイメージを持てるようにしているが、さらに

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 体験レポート・発表資料・リアクションペーパー（非公開）
- 2 授業構想案・指導案・パワーポイント資料



## ティーチング・ポートフォリオ

加藤 美由紀

(記入日：2019年9月23日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (1年前期必修科目 2単位)、児童教育基礎演習 (2年後期必修 2単位)、理科 (1年前期選択必修科目 2単位)、理科教育法 (2年後期選択必修科目 2単位)、教職専門演習 (4) (3年後期選択科目 2単位)、教育実習演習 (事前・事後指導) (3年選択必修科目 1単位)、生命の科学 (1) (2) (共通教育各 2単位)、人体の科学 (1) (2) (共通教育各 2単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

理科、理科教育法、教職専門演習 (4) については、小学校教員免許を取得するために必要な理科に関する資質・能力を身につけることを目標としている。生命の科学 (1) (2)、人体の科学 (1) (2) については、生物学に関する科学的知識をもとに、医療、環境などの日常生活の中での問題についてある程度考えることができる姿勢を身につけることを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

理科については、小学校での学習内容に加え、教員採用試験に出題される範囲の理科に関する概念を習得するために、毎時間実験・実習後、レポートを提出させることで、科学的思考力の育成を行った。今年度は小学校理科で行うプログラミングについて、OA教室にて、各自スクラッチとマイクロビットに触れる機会を設けた。理科教育法については、学生一人一人が実験・実習の模擬授業を行うことで、実験・実習に対する準備、児童への実験方法の指示の方法を習得するよう支援を行った。また、小学校各学年の理科の学習内容の構成を初回と最終回に確認し、新学習指導要領で提示された理科の見方・考え方を働かせた授業を構成する力を育成した。生命の科学・人体の科学においては、生物学に関する科学的知識の説明の後、それらの知識を用いてゲノム編集や、iPS細胞などの科学技術の適用や生物多様性保全などの環境問題について、学生が調べたことを、ジグゾー法によりプレゼンテーションができるように学修を促した (エビデンス1)。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

理科については、毎時間レポートを提出させる中で、探究のプロセスに沿っ

たレポートを作成できる姿勢を身につけた（エビデンス2）。理科教育法については、複数班分の実験の準備、安全指導、実験方法、結果、考察、後片付けの指導についての流れを学生が習得した。また、理科の各学年の学習内容の構成を確認し、理科の見方・考え方を考慮に入れて学習指導案を作成する姿勢を身につけた（エビデンス2）。生命の科学・人体の科学については、日常生活で目にする生命科学の問題について関心を持つ姿勢を身につけた学生もみられた（エビデンス3）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

理科については、実験・実習及びレポート作成による概念の習得を継続するとともに、来年度から始まる小学校プログラミング教育に関して、理科におけるプログラミング的思考を学生が習得する機会を充実させる。ICTの活用に関して、電子黒板を用いての理科授業について学生が習得する機会を設ける。理科のレポート作成や生命の科学、人体の科学のプレゼンテーション資料作成の際には、資料を提示しているが、学生が自ら資料収集できる姿勢を促す機会を増やすよう心がける。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. シラバス（公開）
2. 提出レポート（非公開）
3. リアクションペーパー。発表内容（非公開）

(記入日：2019年9月24日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

国語(1年次 通年 専門教育科目 選択必修 4単位)、国語科教育法(3)(3年次 前期教職に関する科目 2単位)、国語科教育法(4)(3年次 後期教職に関する科目、2単位)、児童教育演習(3年次 通年 専門教育科目 必修 2単位)、教職専門演習(1)(3年次 後期 専門教育科目 選択必修 2単位)、教職教養演習(2)(3年次 前期 専門教育科目 選択必修 2単位) など

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

児童教育学科は、小学校教員の養成を主たる目的としている。その目的を受け私の教育理念・目標は、講義を通して、小学校教員が持つべき知識や技能を学生が身につけることである。さらに、小学校教員が備えておくべき資質や情意面を育成することである。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

1年次の国語では、講義の前半を寺岡による模擬授業を実施し、学生は児童役となる。講義の後半は、前半の模擬授業をめぐるリフレクションを行い、指導技術だけでなく、教師の表情や声かけが児童の心理にどのような効果があるのかを検証していく。通年でこうした講義を繰り返すことで、小学校教員が持つべき知識や技能と、備えておくべき資質や情意面の素地を培っていく。また、講義を受け、その講義のテーマである「読書感想文」や「短歌」等を、授業外に創作し提出することになっている。実際に創作することで児童の立場になり、必要な指導事項等が明確になるからである。

また、3年次の国語科教育法(3)(4)では、国語で培った小学校教員が持つべき知識や技能と備えておくべき資質や情意面を、実際に模擬授業を行い授業者の立場になることで活用していく。模擬授業の機会を各自半期に2

回ずつ、通年で4回設けることで、培った知識・技能や資質等を強化していく。実際に授業時間外で指導案を作成し、繰り返し添削をすることで、授業のイメージを想起できるようにしている。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

1年次の国語においては、学生相互が自主的に学びあうとともに、小学校教員が持つべき知識・技能を身につけ、資質・情意面の育成が見られた。また、授業時間外に学修の時間を設けていることが確認できた（エビデンス1、2）。

また、3年次の国語科教育法（3）では、授業時間外に何度も私の研究室に立ち寄り指導案作成のための助言を求める学生が80%以上いた（エビデンス1）。

また、児童教育演習では、3年次の終了時までには卒業論文の構想の提出を目指している。講義内で文献の収集方法として、「国立国会図書館」や「教科書図書館」の活用を提案したところ、休日等を利用し「国立国会図書館」や「教科書図書館」の活用が確認できた（エビデンス1）。

以上、学生の切実さや必要感等が喚起される場面では、授業時間外でも学修する姿が確認できた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

学生の切実さや必要感が喚起される場面では、授業時間外でも学修する学生の姿が確認できた。

学生が自ら取り組みたいと思える情報（教員の採用状況や、教育現場での課題、文献の収集方法等）を今後も提示し、授業時間外での学修の機会を今後も設けていく。

また、1年次の国語においては、授業時間外に課題を製作する機会が多い。児童の立場になり製作することで、必要な指導事項が明らかになってくる。こうした経験を価値づけることにより、進んで授業時間外に学修する習慣を身につけさせていく。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

（1）リアクションペーパー（非公開）

（2）学生の製作物（読書感想文、短歌、指導案等）（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

教育学部児童教育学科 矢田 訓子

(記入日：2019年 9月 22日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- (1) 道徳教育の指導法 (小)、(2) 学校と教育の歴史、(3) 教育社会学 A・B、
- (4) 教育思想特論

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

受講生は、将来、教員として児童の思考力・判断力・表現力の育成を担っていく。そのため、担当授業では、受講生自身の批判的思考の向上を目指し、アクティブラーニングによる課題の分析や考察を充実させている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- (1) コメントペーパーとその紹介、プリントの作成、模擬授業・指導案の指導、討議方法の紹介と実践
- (2) コメントペーパーとその紹介、プリントの作成、DVD 資料の活用
- (3) コメントペーパーとその紹介、プリントの作成、資料の読解方法の説明と実践
- (4) 文献講読、レジュメの書き方指導

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

- (1) 模擬授業とその後の討議を踏まえて指導案を修正したことで、内容理解の深まりを可視化することができた。
- (2) DVD 資料の活用によって歴史と現代の繋がりを理解することができた。
- (3) 大教室 (A) と少人数教室 (B) の違いを踏まえて、こちらが課題の伝達方法を工夫する必要のあることがわかった。
- (4) レジュメの作成を繰り返すことで、内容の構造的把握ができるようになった。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

- (1) 次年度は受講生が増えるので模擬授業の方法を検討する必要がある。道徳教育の指導法をテーマにした論文を書き、授業のさらなる充実を目指す。
- (2) DVD 資料のバリエーションを増やしていく。多様な観点から説明できるように論文もしくは研究ノートを書いて準備する。
- (3) データを更新する。旧カリの授業なので新カリの授業への応用を検討する。
- (4) 後期の教育思想演習では、今回講読した文献に関する複数の論文を分析し、受講生もこの文献を活用できるようになるよう指導する。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)：いずれも非公開

- (1) コメントペーパー、指導案、レポート、作成したプリント

- (2) コメントペーパー、レポート、作成したプリント
- (3) コメントペーパー、レポート、作成したプリント
- (4) レポート、後期授業（教育思想演習）の充実

※3～6の（1）～（4）は、1の（1）～（4）の授業科目に対応しています。

## ティーチング・ポートフォリオ

奥田 順也

(記入日： 令和元年 9月 24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

児童教育学科科目：「ピアノ実技とソルフェージュ」(前期：選択)、「音楽」(後期：必修) など (他は幼児教育学科科目および共通教育科目)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学習指導要領にもとづき、小学校音楽科の授業を実践できるようになるために、音楽科に必要な知識、技能、音楽表現および実践的な指導法を習得することを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「ピアノ実技とソルフェージュ」においては、授業の前半は主に知識に関する講義を行い、後半はピアノ実技にかかわる授業を行った。特に後半のピアノ実技に関しては、ピアノ実技を経験したことがある学生だけでなく、初心者もいたため、経験者と初級者をバランスよく配置したグループを作り、限られた時間の中でも効果的な学習ができるよう、アクティブラーニングによって教え合う場を設けるなどの方法を実施した。

「音楽」については、現時点でまだ第1回の授業しか終えていないが、ただ小学校の音楽科の授業を概観および経験するだけでなく、学習指導要領に記載されている事項を踏まえ、指導する側の視点から音楽科の授業の内容を実践および考察できるように授業を展開する。また、前期に「ピアノ実技とソルフェージュ」を選択していない学生もいるため、そのことができるだけ影響しないよう、履修者の状況を見ながら、きめ細かく指導する予定である。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

すでに実施した「ピアノ実技とソルフェージュ」では、経験者と初心者の差が授業の進度に影響を与えることが危惧されたが、アクティブラーニングが功を奏し、両手でピアノを弾いたことがなかった学生も、数曲の歌唱曲を伴奏できるようになるに至った。知識を教授した講義も、筆記試験において高得点を

取った学生が多かったことから、基本となる知識の習得はおおむねできたと考ええる。

しかしながら、限られた時間の中で、知識と実技の両方の習熟度をあげるために、それぞれの学習量のバランスを再考する必要があると考える。

「音楽」については、現時点で一回しか実施していないため、省略する。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

「音楽」を終えた時点で、「ピアノ実技とソルフェージュ」との学習内容を精査し、2つの授業が相互作用し、2年次に行う「音楽科教育法」へ効果的に繋がる教授法を、研究と実践の両面から探っていきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

(1) 「振り返りシート」（非公開） 毎回の授業後に「今日学んだこと」、「復習が必要と感じたこと」、「感想」を記述させることで、事前事後の学習およびコミュニケーションを図ることに役立てている。なお、毎回、授業者からコメントを返している。

(2) 「レジュメ」（非公開） 毎回の授業内容に合わせ、適宜、空欄を設けたオリジナルのレジュメを作成し、配布している。レジュメをファイリングすることで、これが一冊のテキストのような役割を果たし、大学卒業後も教育現場で活用できるようにしている。



## ティーチング・ポートフォリオ

松本 祐介

(記入日:2019年9月28日)

### 1 教育の責任(何をやっているか:担当科目)

体育(1年前期必修科目2単位)、児童教育演習(3年必修科目4単位)、教職専門演習(5)(3年前期選択必修科目2単位)、健康スポーツ論(共通教育科目2単位)、オリンピック論(共通教育科目2単位)、スポーツ(4)(共通教育科目2単位)、スポーツ(7)(共通教育科目2単位)

### 2 理念(なぜやっているか:教育目標)

児童教育学科の科目の場合は、教員になるために必要な知識及び技能を確実に身に付け、主体的に意見を共有していくために学生同士の関わり合いを重視しながら、「より良い授業」及び「より良い学級経営」を目指して学び合い高めていくことである。

共通教育科目では、スポーツや運動を肯定的に捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、基本的な知識を身につけるとともに、主体的に「する、観る、支える、知るスポーツ」へと自らを繋げていけるようにすることである。

### 3 方法(どのようにやっているか:実践の工夫)

児童教育学科の科目では、より現場での実践を意識し、具体的な授業実践や取り組みについて映像を用いながらイメージを膨らませ、グループ活動でのディベートにおいて、意見共有を行い、思考力・判断力・表現力を高めることを重視した。

共通教育科目では、講義科目では、「おしゃべりタイム」(話し合い活動)を積極的に取り入れ、様々な意見や経験を聞く機会を設けながら、学習を深めていった。また、リアクションペーパーを毎時間使い、講義に対する意見だけでなく疑問点の解消も行った。実技科目では、主体的な活動を目指して、後半はグループ活動を主に、活動や練習もグループによるオリジナルで行い、試合運営も学生自身で行った。

#### 4 成果(どうだったか:結果と評価)

健康スポーツ論においては、リアクションペーパー及び最終レポートでの感想にて多くの学生から、スポーツに対する否定的な意見から肯定的な意見への変容がみられた(エビデンス1)。その他の授業においても、学生による授業評価アンケートにて一定の高評価を得ることができた(エビデンス2)。

#### 6 エビデンスとなるもの(資料の種類などの名称)

- 1 リアクションペーパー(非公開)
- 2 学生による授業評価アンケート(非公開)